

In Car  
Driving  
Impression



Parallel-  
run Movie  
Camera



S  
MORRIS COOPER



1 ステアリングはレスレストンのウッド。3連式のセンターメーターはオリジナルをレストアしたもの。注目はスミスの機械式タコメーター。針の動きがいかにも機械式的な“刻む動き”でいい感じ。スパイ針は5600rpm。これは10H型エンジンのクーパーチューンが68bhpを発揮する回転域。2 シートはマイクロセルのリクライニング。このシートはアピンドンのコンペティションデパート御用達で、多くのレースカー/ラリーカーに装着されている。これは表皮を張り替えたレストア済の希少価値が高いBMCワークス仕様のリクライニングシート。3 ホイールは穴開きの3.5Jのスチール、通称“Sホイール”と呼ばれるもの。1964年のモンテカルロラリーで勝利した時には、この“鉄チン”ホイールを履いていた。パディ・ホプカークの熱烈なファンとしては履いていたいホイールに違いない。その後、4.5Jになる。装着タイヤはミシュランのMX。4 Mk.1の時代、プロポーションバルブはバルクヘッド下部でなく床下にあった。まだシングルサーキットでフロントおよびリアのブレーキはマスターシリンダーから同じ油圧系で作動する。後期型はデュアルサーキットとなる。

